

2016.9



みずの通信

シンゴジラ

小さな時からゴジラファンでしたが、ゴジラがおそ松くんに出てくるイヤミのシェーをするとい
い(意味の分からない人が多いと思います。) 段々バカバカしくなって、観に行かなくなり、しば
らくしてシリーズが打ち切られました。その時、仕方ないと思いました。

それから平成に入って、平成ゴジラシリーズが始まります。何を今更、と思いましたが、ファン
であったことから観に行ってみると、大きくパワーアップしていました。

このシリーズ、結構楽しませてもらいましたが、これもネタ切れが見え始め、ハリウッドに制作
権を売って打ち切りとなりました。

そして、今回、シンゴジラが封切られました。

想像を絶する自然災害の多い昨今、街を破壊するゴジラ映画を私を含む日本人が受け入れること
ができるのか、もうネタ切れではないのか、そう思っていました。観てみるとなかなかのものな
のです。

難問山積の日本へのエールとなっていますし、凄まじいゴジラ映画にもなっています。

総攻撃の時に流れる音楽は、昭和34年封切りの東宝映画、「宇宙大戦争」のテーマ音楽で、世
界中が一致団結して来襲する宇宙船を迎え撃つシーンを彷彿させ、マニアの心を揺さぶることも忘
れていません。(この映画はさすがに映画館では観ていません)

試写会では、会議の場面が多い、家族愛を描いていない、CGが良くないと、評価は散々だった
とのことですが、蓋を開けたら大成功となり、すでに興行収入30億円を突破しているそうです。

ハリウッド映画のように、家族愛、逞しい父親、ヒーローの個人的スタンドプレイ、コテコテの
CGが必須と思っている人には、このゴジラ映画は受け入れられないかもしれません。

でも、私はハリウッド映画のCGがそんなに凄いとは思いません。ゲームの世界のような何もかも
詰め込んだコテコテの映像、見たことのないという見飽きた映像、臨場感がなくなってしまいま
す。

日本のCGは控えめで、ここぞというところで、余分なものはそぎ落とし、思いっきりミエを切
ったような映像を見せます。私は迫力では日本映画の勝ちだと思います。

とにかく面白かった。二度観てみたい。



オリンピック

リオデジャネイロオリンピック、なんだかんだと言いながら、無事終わりました。東京開催を受
けて、難しいことばかり議論して混乱の感を呈している日本をみると、「そんなに気負わなくて
も」と言っているようにも感じます。南米人はおおらかなんでしょね。羨ましいです。

今回のオリンピック、熱戦が続きましたが、時間の関係でライブ観戦できたことで、特に女子団
体の卓球は凄まじかったですね。銅メダルが取れて本当に良かったと思います。



ふたつの企画展

岐阜市少年科学館のチームラボの企画展、子ども連れで凄い人でした。大の大人ばかりで行きましたので、肩身が狭かったですが、この企画が成功して良かったなあと思います。そうでなければ、岐阜に良い企画が来なくなります。

岐阜もまだまだ捨てたものではないと安心しました。



豊田市美術館のジブリの建造物のミニチュア展、精巧なミニチュア に目を見張るものもありますが、単純なマックロクロスケの階段が、等身大で妙に臨場感があり、胸が躍りました。

花押

自筆遺言証書の要件は、全文自筆で書くこと、署名をすること、押印をすること、とされています。押印は認印でも結構です。

そこで、最近の最高裁の判例で、花押を用いた遺言は、押印ではないので、自筆遺言証書としての要件を満たさないとされました。

花押というのは、歴史ドラマにもできますが、戦国武将などが自分の書状であることを示すため、署名の下に書く、印影のようなものです。その場面を見られた方も多いと思います。

現在、総理大臣も花押を用いています。

常識的に考えれば、花押を用いたのは、認印よりは遥かに本人が書いたものであると立証できるとの考えであろうし、私も花押があればそれで本人の書いたものと確認すると思います。

それなのに、単純に、「印」ではないと、自筆遺言証書の要件を満たさないとしました。

実質より形式を優先した判決となりました。個人的には不可解です。



思い

終戦特集番組で、フィナーレ爆撃のこと初めて知りました。日本の降伏を促すために、終戦前日の8月14日に東京大空襲の300機をはるかに上回る1,000機以上の爆撃機が日本全土の軍事施設を爆撃し、海軍工廠等で武器製造に携わっていた何百人という子供たちが犠牲となりました。あと一日、あと一日で終戦となるのに、親の思い等を考えると胸が詰まります。

ある人の見解です。

天皇は生前退位の意向を国民に訴えるためにビデオメッセージを作成し、マスコミがそれを流しました。

以前天皇は、私たちが忘れてはならない日は、原爆が広島に落とされた日、原爆が長崎に落とされた日、沖縄戦終結の日、終戦の日と言われたそうです。終戦の日天皇は12歳の皇太子、元首の後継者としての帝王学を学んでいたでしょうし、父に元首としての天皇の姿、象徴としての天皇の姿を見てきました。

天皇は最初から象徴として天皇の座に就いた最初の天皇です。でも元首になったかもしれない天皇です。象徴として何が自分にできるか、ずーっと自問自答してきたことでしょう。

戦争を玉音放送で終わらせた父をみて、同じように、ビデオメッセージという形で、平和憲法を持つ国の象徴の天皇として自分は活動を心掛けてきた、今後もそうありたいと訴えたのではないのでしょうか。政治に関与できない天皇の形を変えてでの精一杯の表現ではなかったのでしょうか。



くろがねの 秋の風鈴 鳴りにけり (飯田蛇笏)

